



ポストコロナ時代における 美祢地域のインバウンド観光

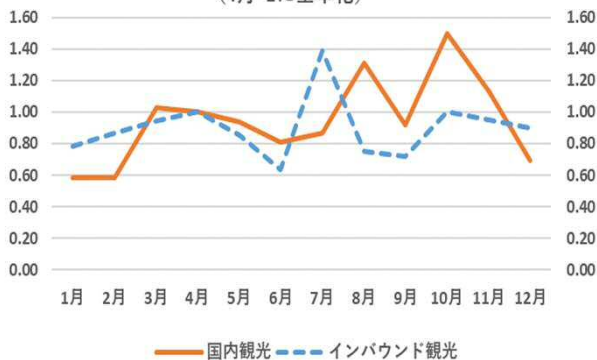
山口大学教育学部 講師 森 朋也

新型コロナウイルスの拡大以前、インバウンドの観光は、地方経済において非常に重要視されていました。なかでも、国内観光の閑散期に、インバウンド観光客が訪問することで、観光の季節変動を緩和することが期待されていました（森、2021、森川、2015等）。

では、美祢市における観光需要の季節変動はどうなっているのでしょうか。図1は、平成24年度から30年度までの月別国内観光客とインバウンド観光客数の平均値を示しています。それぞれ異なる季節変動を持っていることがわかります。

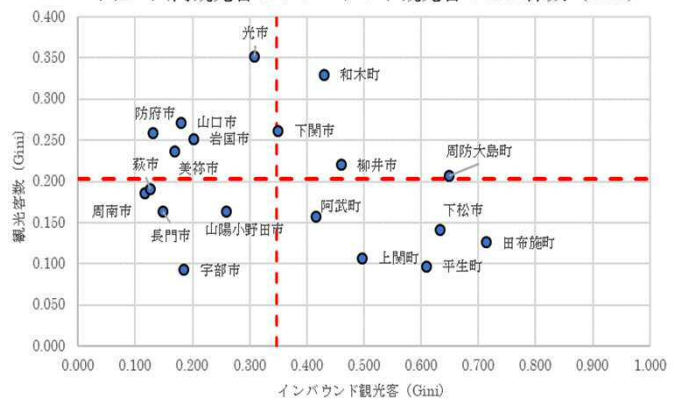
また、図2は、山口県19市町を対象に、平成30年度における国内観光客とインバウンド観光客の季節変動をプロットしたものです。図2から、美祢市は、県内の中では、比較的、インバウンド観光の季節変動は強くなく、国内観光の方は季節変動が多少強いことがわかります。

図1 H24～30の月別観光客数の平均値
(4月=1に基準化)



出所：『山口県の宿泊及び観光客の動向』（平成24年度から平成30年度）から作成。

図2 国内観光客とインバウンド観光客のGini係数 (H30)



出所：森（2021）から一部加工して引用。

さて、ポストコロナ時代においては、単に量を求める観光戦略は、地域社会、観光客と共に求められるものではないでしょう。今後、上述の季節変動を考慮した上で、観光客と地域社会のミスマッチの少ない観光戦略が必要です。われわれは、山口大学の留学生を対象として、美祢市の観光情報獲得プロセスについて調査を行いました。留学生は、短期間に美祢市に滞在する観光客とは完全に一致はしませんが、その意見や視点は、示唆に富むものもあるでしょう。例えば、留学生がSNSで発信する情報はインバウンドを引き入れる可能性もあります。

調査の結果から、留学生は、自治体のホームページよりも、Facebook, Instagram, Youtubeなどのサービスを利用して、写真や動画を閲覧して旅行の意思決定をしていました。もちろん、自治体や観光協会もこれらのサービスから情報を発信していますが、これらは、情報が大量で集約されていません。実際、美祢市に訪問したことはあるが、秋吉台のサファリなどのいくつかの観光スポットを知らない留学生がいました。このようなミスマッチを解消するためにも、アクセスが容易で、集約された観光情報の発信が必要でしょう。

【参考文献】 森朋也（2021）『山口学研究』第1号／
森川正之（2015）RIETI Discussion Paper Series, 15-J-049.